

令和 6 年度

(対象期間：令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月)

若松焼却工場

環 境 活 動 報 告

作成日 令和 7 年 8 月

株式会社ビートルエンジニアリング

目次

1. 環境方針
2. 基本理念
3. 組織の概要
4. 事業内容
 - ①事業内容
 - ②処理工程
 - ③受入実績
 - ④管理者
 - ⑤処理料金
5. 環境配慮の取組み
 - ①環境配慮の実践
 - ②外部コミュニケーション
 - ③内部コミュニケーション
6. 環境マネジメントシステム
 - ①体制図
 - ②対象範囲
 - ③環境目標
 - ④環境活動計画
 - ⑤環境目標実績及び活動計画の取組結果と評価
 - ⑥次年度の環境活動計画
 - ⑦マネジメントレビュー

1. 環境方針

基 本 理 念

環境問題をファッション化してはならない。
何故なら、この地球は間違いなく病んでいるから。

この地球上に生息する数億種の生物において、
たった1種の生物が全ての生活環境を狂わしている。

枯れ始めた大地を前にして、
「わたくしたちは、環境問題を考えるのではなく、今すぐ行動しなければならない。」
と決意する。わたくしたちは環境マネジメントシステムを通じ、
この素晴らしい地球のためにあらゆる努力を傾注して参ります。

当社は廃棄物の処分の事業活動の中で環境関連法規制の遵守は無論のこと、
継続的な環境の改善、及び汚染の予防を図ります。
まずは社員自ら行動することに重きを置き、更に排出事業者(お客様)に対しても、
その企業の実情に合った廃棄物適正処理プランを策定し、実行致します。

- ①燃料、水、電気の省資源化を推進いたします。
- ②焼却後残渣についてリサイクルの限界を追求します。
- ③社屋内外、機械設備の清掃活動により社員自らの環境に対する意識の向上や施設の延命に努めます。
- ④講習会などの積極参加により廃棄物適正処理に対する専門知識の取得に努めます。
- ⑤近隣社会との共栄を第一に地域に根差した事業を展開します。

2. 基本理念

その情熱、海を越えて

ビートルエンジニアリングの挑戦のひとつは、シンプルで効率的な焼却施設の運営を行うことです。今後続くであろう人手不足の問題は、次世代の廃棄物業界を担う若者たちが避けては通れない道。私たちは環境問題を考えた場合のリサイクルや処理を追求するうえで原点に戻り必要不可欠な焼却処理施設の運用を行い、持続可能な開発目標を達成するために情熱をもって事業に取り組めます。

経営理念

- | | |
|----|---|
| 誠実 | 私たちは真心をもって物事に向き合い、お客様と信頼関係を築き、一致協力し業務を遂行いたします。 |
| 感謝 | 私たちは、常に感謝の気持ちを忘れず、誰に対しても陰日なたなく接することでお客様との信頼を築きます。 |
| 挑戦 | 私たちは、経験と信頼の実績を重ね、常に新しい課題に正面から向き合い、持続可能な環境社会の実現を目指します。 |

3. 組織の概要

① 事業者名および代表者氏名

株式会社ビートルエンジニアリング

代表取締役 西原 靖博

② 沿革

2000 年 5 月	(株)CRIP 創業（人材派遣業）
2019 年 3 月	(株)ビートルエンジニアリングへ社名変更
2019 年 4 月	定款変更（人材派遣業→廃棄物処理業）
2020 年 10 月	若松工場稼働
2021 年 9 月	若松工場 再生エネ 100%電力を導入
2022 年 3 月	北九州市より脱炭素電力認定制度「脱炭素先進企業」に認定
2022 年 4 月	若松第二工場 BRC(BeetleRoboticCenter)工場稼働
2022 年 12 月	北九州市より脱炭素サプライチェーン支援事業に採択
2023 年 3 月	北九州市よりプラスチック資源化物の中間処理業務を受託
2023 年 6 月	資本金増資
2023 年 10 月	若松第二工場 SRC(SortingRecycleCenter)工場稼働
2023 年 10 月	北九州市内家庭系プラスチック資源化物一括回収受入れ開始
2024 年 3 月	プラスチック資源循環法に基づく再商品化計画認定(環境省・経産省)
2024 年 11 月	2050 年カーボンニュートラル目標の達成に向け脱炭素宣言を公表
2025 年 5 月	中小企業庁 100 億宣言にて成長戦略目標を公表

③ 事業の規模

資本金 5,000 万円

従業員 60 名

敷地面積 16,531.35 m²

④ 所在地

本社 福岡県北九州市八幡西区陣原二丁目 8-2

若松工場 福岡県北九州市若松区響町一丁目 62-39

BRC 工場 福岡県北九州市若松区響町一丁目 105-16

SRC 工場 福岡県北九州市若松区響町一丁目 105-24

※以下の内容は若松焼却工場のみの環境活動報告とする。

4. 若松焼却工場事業内容

① 事業内容

(1) 事業の範囲

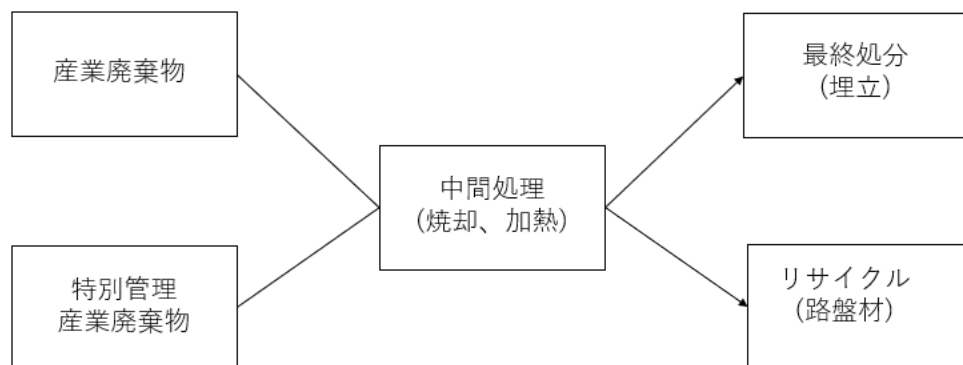
産業廃棄物処分業、特別管理産業廃棄物処分業

(2)-1 許可の内容

許可の種類	産業廃棄物処分業 (北九州市)	許可番号	第 07620217793 号
許可年月日	令和 2 年 10 月 15 日	有効年月日	令和 7 年 10 月 14 日
許可品目	【焼却】汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、 動植物性残さ、ゴムくず		
	【加熱】金属くず、ガラスくず		

許可の種類	特別管理産業廃棄物処分業 (北九州市)	許可番号	第 07670217793 号
許可年月日	令和 2 年 10 月 15 日	有効年月日	令和 7 年 10 月 14 日
許可品目	【焼却】感染性産業廃棄物		

② 処理工程



③ 受入実績

令和 4 年度 7,196t (稼働: 2022 年 4 月～2023 年 3 月)

令和 5 年度 6,583t (稼働: 2023 年 4 月～2024 年 3 月)

令和 6 年度 7,086t (稼働: 2024 年 4 月～2025 年 3 月)

- ④ 焼却施設技術管理者氏名及び担当者連絡先
技術管理者 西 勇人
連絡先 TEL：093-752-2055 FAX:093-752-2088

- ⑤ 廃棄物処理料金
料金の提示：見積書による。サンプル等確認後見積書作成。

5. 環境配慮の取組み

① 環境配慮の実践

- ・フォークリフトのEV化（2台）
- ・焼却灰のリサイクルフローの構築（路盤材利用）
- ・消防車両の設置
- ・再生エネルギー100%電力の導入
- ・太陽光パネル(第三者所有方式)の設置

② 外部コミュニケーション

(1) 情報の発信

- ・ホームページの活用 <https://beetleengineering.jp/>
- ・メディアの活用（実績：日本経済新聞、日刊工業新聞、循環経済新聞等）

(2) 工場見学の受入

- ・河野太郎 元内閣府特命担当大臣（規制改革）
- ・環境省 大臣官房環境計画課
- ・独立行政法人国際協力機構
- ・公益財団法人北九州国際技術協力協会(日中韓3ヵ国合同環境研修)

(3) 中央省庁及び地方自治体の取組への参画

- ・地域経済牽引事業計画（福岡県）
- ・令和3年度北九州環境未来技術開発助成事業（北九州市）
- ・北九州環境ビジネス推進会（北九州市）
- ・脱炭素先進企業認定(北九州市)
- ・プラスチック資源循環法に基づく再商品化計画認定(環境省・経産省)
- ・サーキュラーパートナーズ参画(経産省)

③ 内部コミュニケーション

(1) 作業

- ・各種マニュアル（作業、点検）
- ・日勤夜勤交代時の作業日報

(2) 緊急事態

- ・緊急事態マニュアル
- ・故障/不具合の報告書

(3) 社内教育

- ・講習…安全衛生、ヒヤリハット
- ・訓練…火災訓練

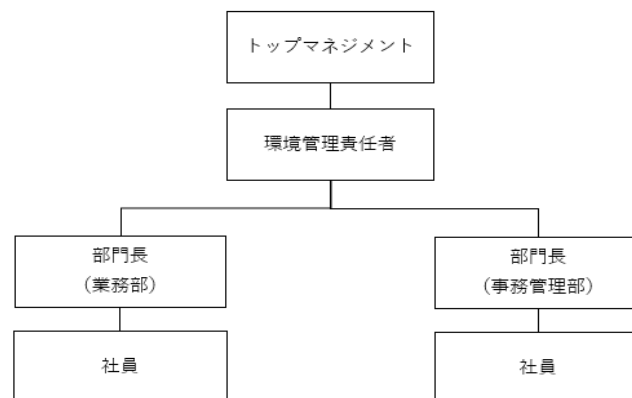
(4) 安全活動

- ・安全パトロール
- ・安全会議

6. 環境マネジメントシステム

弊社の主な事業である廃棄物処理事業（焼却）は、令和2年10月より開始した。
令和3年度の実績を基に、次の通り環境マネジメントシステムの基準を改定した。

① 体制図



用語	説明
トップマネジメント	当社の最高管理責任者を指す。具体的には、代表取締役を指す。
環境管理責任者	環境マネジメントシステムにおいて、部門長の補佐及び全体の管理をおこなう。具体的には工場長を指す。
部門	環境マネジメントシステムを実施し、維持及び改善する単位を指す。具体的には、業務部・事務管理部を指す。
部門長	各部門の部長を指す。

② 対象範囲

(1)適用する事業活動

- a. 産業廃棄物の中間処理
- b. 特別管理産業廃棄物の中間処理

(2)適用する事業所

- a. 本社 福岡県北九州市八幡西区陣原二丁目 8-2
- b. 若松工場 福岡県北九州市若松区響町一丁目 62-39

(3)適用する部門

- a. 業務部
- b. 事務管理部

③ 環境目標

令和 5 年度の年間実績を基準年として、以後 2 年間の目標を設定する。

環境目標		単位	令和 5 年度 (基準年)	令和 6 年度 (目標)	令和 7 年度 (目標)
エネルギー起源二酸化炭素 排出量の削減		Kg-CO2	89,097	87,315	85,569
	電気使用量(通常)	kWh	-	-	-
	電気使用量(再エネ)	kWh	865,867	848,550	831,579
	重油使用量	L	25,400	24,892	24,394
	軽油使用量	L	7,800	7,644	7,491
	ガソリン使用量	L	60	59	58
工業用水使用量の削減		m ³	34,389	33,701	33,027
上下水使用量の削減		m ³	907	889	871
社会貢献活動		回	4 回/年	4 回/年	4 回/年
重大事故ゼロ		回	0	0	0

電力(通常)の二酸化炭素排出係数には九州電力、0.000391(t-CO2/kWh)を使用した【※1 環境省公表】

電力(再エネ)の二酸化炭素排出係数には北九州パワー、0(t-CO2/kWh)を使用した【※1 環境省公表】

※環境省：算定方法及び排出係数一覧 (<https://ghg-santeikohyo.env.go.jp/calc>)

④ 環境活動計画

(1) エネルギー起源二酸化炭素排出量の削減

取組項目	活動項目
電気使用量の削減	・ 再生エネルギー活用の検討
	・ 日勤時間帯の消灯の励行
	・ 焼却炉の適正運転
重油使用量の削減	・ 焼却炉の適正運転
軽油使用量の削減	・ 重機の適正運転
	・ 重機の点検整備の励行
ガソリン使用量の削減	・ 機器の適正運転
	・ 機器の点検整備の励行

(2) 工業用水使用量の削減

取組項目	活動項目
工業用水使用量の削減	・ 節水への声掛け
	・ 焼却炉の適正運転
	・ 冷却塔の循環活用の検討

(3) 上下水使用量の削減

取組項目	活動項目
上下水使用量の削減	・ 節水への声掛け
	・ 場内清掃や終業時シャワー利用時の節水

(4) 社会貢献活動

取組項目	活動項目
周辺道路の清掃 (目標：年4回実施)	・ 草刈り
	・ ゴミ拾い

(5) 重大事故ゼロ

取組項目	活動項目
重大事故ゼロ (目標：年0回)	・ 安全具の着用徹底
	・ 安全衛生教育の実施

⑤ 環境目標実績及び活動計画の取組結果と評価

(1)実績

環境目標		単位	令和 6 年度 (目標)	令和 6 年度 (実績)	目標達成の 比率
エネルギー起源二酸化炭素 排出量の削減		Kg-CO2	87,315	54,387	161%
	電気使用量	kWh	—	—	121%
	電気使用量(再エネ)	kWh	848,550	702,434	
	重油使用量	L	24,892	10,940	228%
	軽油使用量	L	7,644	9,206	83%
	ガソリン使用量	L	59	426	14%
工業用水使用量の削減		m ³	33,701	35,841	94%
上下水使用量の削減		m ³	889	1,091	81%
社会貢献活動		回	4 回/年	4 回/年	100%
重大事故ゼロ		回	0	0	100%

(2)取組結果と評価

取組項目		活動項目	結果	課題	
エネルギー起源二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	再生エネルギー活用の検討	○	令和7年2月期の大規模改修工事期間中、一時的に重油使用量が減少した。また工事完了後は、燃焼効率の向上により重油使用量の減少を達成した。 軽油・ガソリンの使用量については、来年度の3カ年計画時に目標の修正が必要である	
		日勤時間帯の消灯の励行	○		
		焼却炉の適正運転	○		
	重油使用量の削減	焼却炉の適正運転	○		
	軽油使用量の削減	重機の適正運転	○		
		重機の点検整備の励行	○		
	ガソリン使用量の削減	機器の適正運転	○		
		機器の点検整備の励行	○		
工業用水使用量の削減		節水への声掛け	○	冷却水の循環は使用量削減に有効、引き続き検討する	
		焼却炉の適正運転	○		
		冷却水の循環活用の検討	×		
上下水使用量の削減		節水への声掛け	○	節水は未達、来年度は清掃時に工業用水を活用し削減に努める	
		清掃時の節水	×		

周辺道路の清掃	草刈り	○	本年度目標達成、来年度も継続に努める
	ゴミ拾い	○	
重大事故ゼロ	安全具の着用徹底	○	本年度無事故、安全教育を継続し、実施記録の作成及び保管
	安全衛生教育の実施	○	

⑥ 次年度の環境活動計画（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月）

（1）エネルギー起源二酸化炭素排出量の削減（前年比 2%削減）

取組項目	活動項目
電気使用量の削減	・ 太陽光パネルの維持管理
	・ 日勤時間帯の消灯の励行
	・ 焼却炉の適正運転
重油使用量の削減	・ 焼却炉の適正運転
軽油使用量の削減	・ 重機の適正運転
	・ 重機の点検整備の励行
ガソリン使用量の削減	・ 機器の適正運転
	・ 機器の点検整備の励行

（2）工業用水使用量の削減（前年比 2%削減）

取組項目	活動項目
工業用水使用量の削減	・ 節水への声掛け
	・ 焼却炉の適正運転
	・ 冷却塔の循環活用の検討

（3）上下水使用量の削減（前年比 2%削減）

取組項目	活動項目
上下水使用量の削減	・ 節水への声掛け
	・ 場内清掃や終業時シャワー利用時の節水

（4）社会貢献活動（目標：年 4 回）

取組項目	活動項目
周辺道路の清掃	・ 草刈り
	・ ゴミ拾い

(5) 重大事故ゼロ（目標：年 0 回）

取組項目	活動項目
重大事故ゼロ	・安全具の着用徹底
	・安全衛生教育の実施

⑦ マネジメントレビュー（令和 7 年 4 月実施）

【評価】

1. 本年度も設備および従業員に関する事故は発生せず、全工場において安定した操業を継続することができた。安全管理体制の見直しとともに、産業医の選定、安全パトロール、安全会議の定期実施を継続できた点は評価できる。
2. 若松工場、SRC 工場、BRC 工場の全拠点において ISO14001 の認証取得を達成した。環境マネジメント体制の構築と運用が着実に進んでいる。
3. 再生可能エネルギー計画のステップ 2 として、太陽光パネルおよび蓄電池の導入したことを踏まえ、今後は CO₂排出量削減効果の定量的な測定を進めるとともに、省エネ診断結果に基づいた環境配慮の取り組みを継続していくことが望まれる。
4. 従業員への面談及びアンケートを継続実施し、フィードバックに基づく職場環境の改善活動を行うことができた。多様な人材・外国人雇用も進みつつあり、コミュニケーションの活性化に向けた取り組みも始まっている。

【見直し】

1. グループ全体の安全衛生年間スケジュールの策定と、計画項目の着実な実施を継続すること。設備の老朽化対策については、稼働年数に応じた点検・更新計画の立案を進めること。
2. ISO14001 取得後の運用定着と継続的改善を図るとともに、プラリー工場の建設に伴う新拠点との連携体制を早期に構築すること。
3. 脱炭素サプライチェーン支援事業の一環として、省エネ診断結果を活用し、法的規制への対応を含めた環境配慮の深化を図ること。CO₂削減効果の見える化にも取り組むこと。
4. 人材確保と職場環境改善の両立に向けて、面談・アンケートの継続実施とフィードバックの共有を徹底すること。外国人雇用を含めた多様な人材との円滑なコミュニケーション体制の整備も推進すること。

以上